



喜多の埜

梅田に天神様が来られた日

当宮の主祭神の御一柱は言うまでもなく、天神さまこと菅原道真公ですが、その道真公が無実の罪で京都から九州の太宰府まで左遷される途中、この梅田に立ち寄られた日。これは旧暦の昌泰四年(九〇一)二月二日と、当宮の古記録には記載されております。

「明遁二日に津乃國難波江の

此乃 喜多埜の川上に 御着…」

と京都を出られた翌日に当地梅田(喜多埜)に到着された事が分かります。

ただ、これは旧暦ですので、現在の暦にあてはめますと、今の二月下旬(二月二十三日頃が有力)頃であったと推測されます。あとは当宮の由緒にもあります通り、ちょうど満開であった当地の紅梅をご覧になられる為、船の艫綱を円座状に敷いて、そこに坐られて暫しご賞翫あそばしました。(綱敷の由縁)

道真公はその後、太宰府へと旅立たれ、現在の九州太宰府市朱雀六丁目にある「榎社」に実質幽閉され、二年後の延喜三年(九〇三)に薨逝あそばし、天神さまとされます。

ここで不思議な事ですが、北を0度とした時、当宮の御本殿から、旧暦二月二日(二月二十三日で計算)に沈む夕日を見ると、方位角二百五十八度の方向に太陽が沈みます。

そして、当宮御本社の本殿から、榎社への方角もちょうど二百五十八度であり、つい最近になって分かった事で、まったくの偶然であろうと思われるが、これも天神さまと当宮との深い御縁であると感じずにはおられません。

御旅社の盆梅

茶屋町の御旅社では、今年も二月中旬より、社殿前に小さな盆梅をお飾りいたします。当宮では梅の木は御神木であり、梅田の名の由来ともなったと伝えられております。

今冬は大変な冷え込みですので、開花時期は例年より遅れそうですが、梅田における早春の訪れを感じて頂ければと思います。

震災義捐金箱の設置

早くも東日本大震災の発生から二年になるうとしていきます。昨年度は当宮から五万円、ご参拝の皆さまからのご浄財、四三四〇四円の義捐金を、被災地各神社をはじめ、特に被害の大きかった宮城県亘理郡の川口神社さま、宮城県石巻市の烏屋神社さま、岩手県大船渡市の天照御祖神社さまにお送りする事が出来、各神社の宮司さま始め、被災地の皆さまより御礼の言葉を頂いております。

しかしながら、日が経つにつれ、被災地への関心が薄れつつあるのも現実です。阪神大震災の折は悲しい話ですが三年後に自殺者数が急増しています。こうした不幸を繰り返させぬ為にも、小さいながらも「長く被災地に思いを致し」本年も今月十一日頃より、茶屋町の御旅社に義捐金箱を設置させて頂きます。

厄年の御祈祷

当神社では厄年の厄除け祈祷を受け付けております。御祈祷はご予約制ですので、事前にお電話等でご予約下さい。

男 性		
前厄	本厄	後厄
平成 2年生(年) 24歳(小厄)	昭和 64年生(巳) 25歳(中厄)	昭和 63年生(辰) 26歳(小厄)
昭和 48年生(丑) 41歳(中厄)	昭和 47年生(子) 42歳(大厄)	昭和 46年生(癸) 43歳(中厄)
昭和 29年生(年) 60歳(小厄)	昭和 28年生(巳) 61歳(中厄)	昭和 27年生(辰) 62歳(小厄)

女 性		
前厄	本厄	後厄
平成 8年生(子) 18歳(小厄)	平成 7年生(亥) 19歳(中厄)	平成 6年生(戌) 20歳(小厄)
昭和 57年生(酉) 32歳(中厄)	昭和 56年生(申) 33歳(大厄)	昭和 55年生(未) 34歳(中厄)
昭和 53年生(年) 30歳(小厄)	昭和 52年生(巳) 27歳(中厄)	昭和 51年生(辰) 28歳(小厄)
昭和 29年生(年) 60歳(小厄)	昭和 28年生(巳) 61歳	昭和 27年生(辰) 62歳(小厄)

神社携帯サイトのQRコード

ドコモ、ソフトバンク、

a u、モバイルPC 対応



編著 網敷天神社 禰宜(神主)

白江 秀 知

